

第4回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2023年7月25日(火) 19時~21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 27名
- ◇内容 優良実践事例の授業分析
大和郡山市立片桐西小学校 教諭 中澤哲也氏
「地域の産業を生かしたESD実践」小学校3年生 総合的な学習の時間

○実践内容

大和郡山市は金魚が伝統産業として続いている

朝どり金魚の自動販売機もある

全国金魚すくい選手権大会は有名

→ それらは子どもにとっては「当たり前」

- 教材**
- ・柳町商店街の「金魚ストリート」
 - ・市で公認された「金魚マイスター」

金魚ストリートは、各店舗が金魚に関する様々な工夫をしている

「御金魚帖」(店を回ると御朱印のようにスタンプがもらえる)

10年前に、呉服店を営む北谷さんが取り組みを始めた

「観光客が金魚で楽しめる街にしたい」

金魚マイスターは、市で公認されると公共施設などで普及活動を行う



大和郡山市の金魚について知っていることを出し合う

→ 大和郡山市にとって金魚はなくてはならないものになっている

「なぜ、大和郡山市では金魚が有名なのだろうか？」

・金魚を学校で飼育して、観察を通して金魚のもつ魅力について調べてみよう

金魚が安心して暮らせる観察池に！ → 飼育池を見るとネットが張っている(鳥除け)

土嚢袋を重しにしてネットを張る

金魚マイスターさんにインタビュー… 長生きする飼い方、金魚と自然環境、金魚への思いなど

「みんなにはもっと金魚のことを大好きになってほしい」

「大和郡山市は金魚のまちだといろんな人に自慢してほしい」

誰かに言われたのではなく、自分のまちをよくしたいと思って活動されている！

・金魚ストリートの見学、北谷さんにインタビュー

金魚すくい体験、金魚の仕分け見学

「この商店街をもっと元気な商店街にしようと思って始めました。今では私の誇りです。」

「みなさんは自分の学校に誇りをもっていますか？」

金魚マイスターさんと商店街の人たちの共通点は何だろう？

自分たちのまちをよくしていこうとがんばっているところ

誰かに言われてやっているのではなく、自分で考えて行動しているところ

自分のまちに誇りをもっているところ

3年生の廊下を金魚ストリートにしよう

3日間開催 全校の人に來てもらって楽しんでもらおう
スタンプラリー ビンゴ クイズ 自動販売機 壁や天井にも装飾
参観での発表会

○質疑・意見交流

- ・この活動はどのぐらい継続しているのか？
 - 総合が固定化していないので今回が新たな取組。
数年は、ブラッシュアップしながら継続できればいい。
- ・地域の人との連携の仕方（どういう情報を出してもらいたいかなど）は？
 - 金魚マイスターの方と打ち合わせをする中で、あまり3年生向きではないと感じたので、話してほしい内容を詳細に伝えた。子どもから質問してそれに答えてもらうような形を中心にした。
- ・生産農家が減少していることや形の悪いものが投棄されてしまうことなど、調べていく中で負の部分に気づいた児童はいなかったのか？
 - 社会科の授業の中で取り扱ったが、ここで特にフォーカスすることはしなかった。
- ・子どもたちがこの学習を通してどう変わったか？
 - 水槽をよく見に行くようになった（自分たちでつくった池だ！）
人に聞くといろんなことが分かる！ 人に注目して考えるようになった。
- ・子どもたちのアウトプットに対する保護者や他学年からの反応は？
 - 他学年からはもう一日やってほしい 保護者からも参加型でよかったという声
学級通信で子どもらの方にもその意見を返す
- ・北谷さんの「学校や地域に誇りをもってほしい」という言葉は、お願いして出てきたものなのか？
 - 打合せで単元構想図を見せながらこちらの思いを話している中で、北谷さんの方からそういう言葉が出てきたので、ぜひ伝えてほしいとお願いした。
- ・実践に対する当初のねらいと、終了後の達成度について教えてほしい。
 - 学校にも多くのごみが散らかっている状況をなんとかしたいと思ったが・・・
負の側面を提示して考えるより、いいところをさらによくするのは考える方が子どもの実態に合っている。結果的にはその方がよかった。
- ・この取組を学校としてどのように発展させることができると思うか？
 - 何もいない池が変わって、2年生も生き物調べでよく来てくれるようになった。
- ・総合が固定化されていて身動きが取れない学校で勤務しているのだが・・・
 - 決まっている活動を、そのときの子どもの実態に合わせて考えると違ったものになることもある
- ・この子どもたちは4年生になってどんな学習を？ 次の3年生もこの学習をするのか？
 - 4年生の授業のことを知らないのが現状。進めてはいるがどうなるかは分からない。
- ・金魚のようなその地域で取り上げたい題材がない場合は？ そんな題材の見つけ方か？
 - 転勤したら、まずは地域の歴史を知ることから始めている 地域を歩く
- ・子どもたち自身が自分たちで何かをつくる、育てるという活動が、いちばん成長するのだと思う。
- ・学校として、各学年の活動を共有することが大事なものは分かっているものの、それをしていないから固定化してしまう要因でもあると思う。もっと積極的に発信していくべきかを感じる。

ESDとしての授業分析

- ・ ESDの視点（見方・考え方）
すべての視点があてはまるのでは
連携性 責任性
- ・ 育てたいESDの資質・能力
進んで参加する態度…「何とかしたい」「次は〇〇しよう」と思う気持ちが醸成されている
コミュニケーション力…インタビューなどを通して
つながりを尊重する態度…人と人とのつながりが感じられる
他者と協力する態度…みんなで金魚ストリートをつくった
未来像を予測して考える力…今後の自分たちの生き方を考えること
批判的に考える力…なぜ金魚が有名なのかと当たり前を見つめ直す
- ・ 育てたいESDの価値観
世代間の公正 世代内の公正 人権・文化の尊重 生態系の保全
幸福感の重視…社会に参画できた達成感、いろいろな人から認められた充実感

いい授業ほど、結果的にすべてがあてはまるようになっていく。
しかし、授業づくりをするうえでは、どこかにフォーカスして考えないと焦点がぼやけてしまう。

授業づくりで大切にしたいこと

「価値観と行動の変容」を目指すために、感性に訴えるような内容に。
教材は自分自身が「おもしろい」と感じたものを。あとは料理の仕方の工夫。